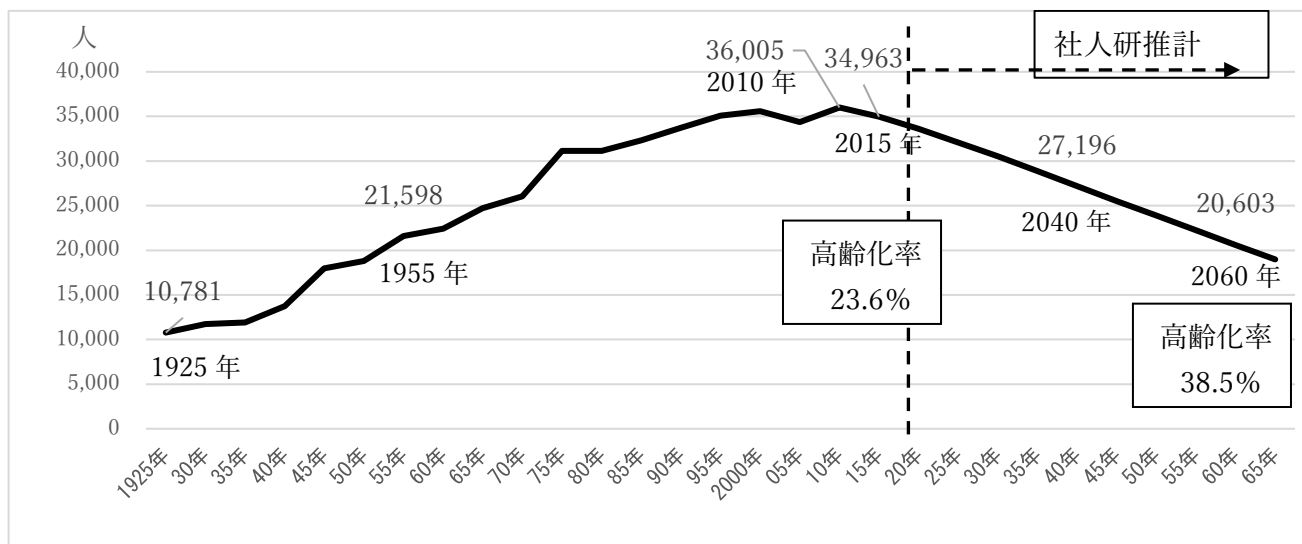


将来人口の推計

国の社会保障・人口問題研究所の2015年の国勢調査をベースとした推計によると、2040年には約2万7千人、2060年には約2万1千人になると推計されている。

2060年時点の生産年齢人口と年少人口は半減する一方で、高齢化率は38.5%に上昇すると見込まれている。



(資料：国勢調査及び社人研推計)

社会増減の推移 (主な特徴)

(1) 日本人と外国人の社会増減

2016年(平成28年)以降、外国人の転入増加などにより大幅な転入超過となっている。また、2019年(令和1年)は外国人の転出増加により転出超過となっている。

転入—転出	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2015~2019
日本人	90人	363人	△117人	181人	59人	576人
外国人	△10人	168人	455人	286人	△161人	738人

(2) 男性と女性の社会増減 (2015年(平成27年)~2018年(平成30年)の累計)

男性は若い世代(10代、20代、30代)で大幅な転入超過となっている。一方で女性は、若い世代(10代、20代)で転入超過となっているものの、30代以上で転出超過となっている。

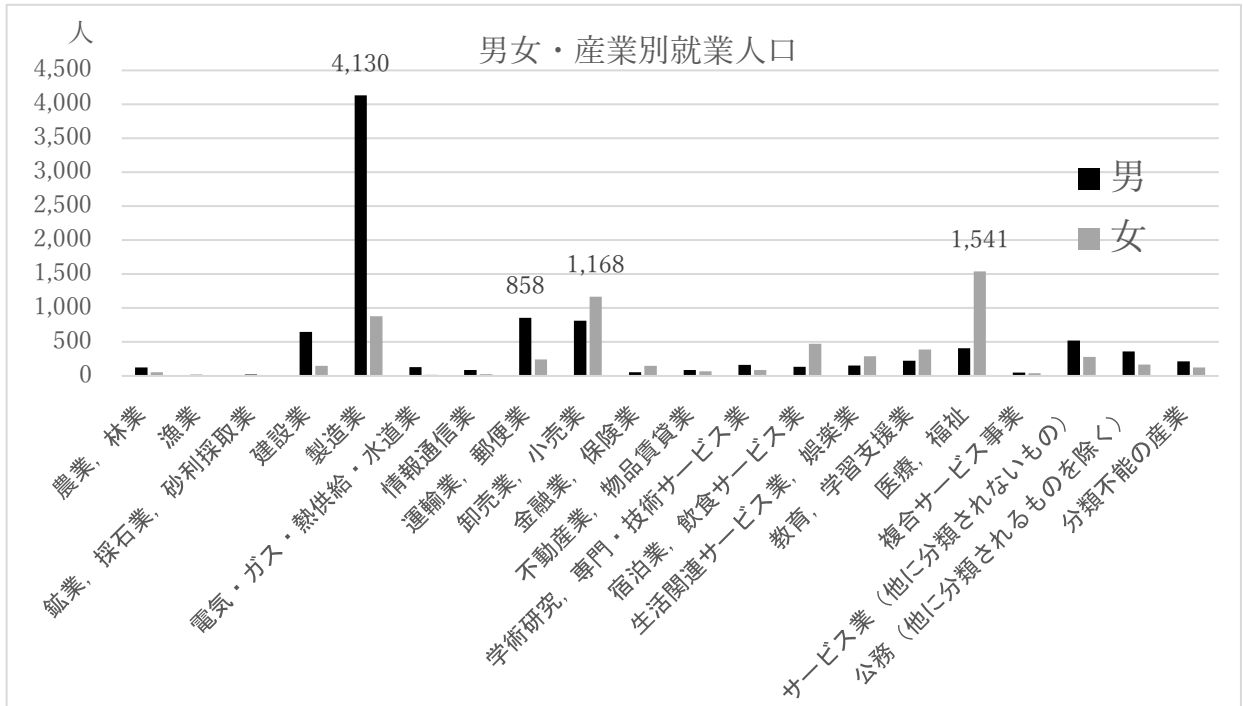
	0~9歳	10~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60歳以上
男	△12人	242人	877人	272人	137人	5人	△34人
女	△5人	31人	19人	△11人	△42人	△32人	△31人

(3) 転入・転出先別の社会増減 (2018年(平成30年))

転出超過が最も多い市町村は行橋市(△77人)で、次に東京都(△13人)となっている。また、転入超過が最も多い市町村は築上町(121人)で、次に福岡市(40人)となっている。

主な市町	転入	転出	転入—転出	主な市町	転入	転出	転入—転出
行橋市	273人	350人	△77人	築上町	146人	25人	121人
東京都	49人	62人	△13人	福岡市	158人	118人	40人
北九州市	535人	535人	0人	広島市	43人	14人	29人

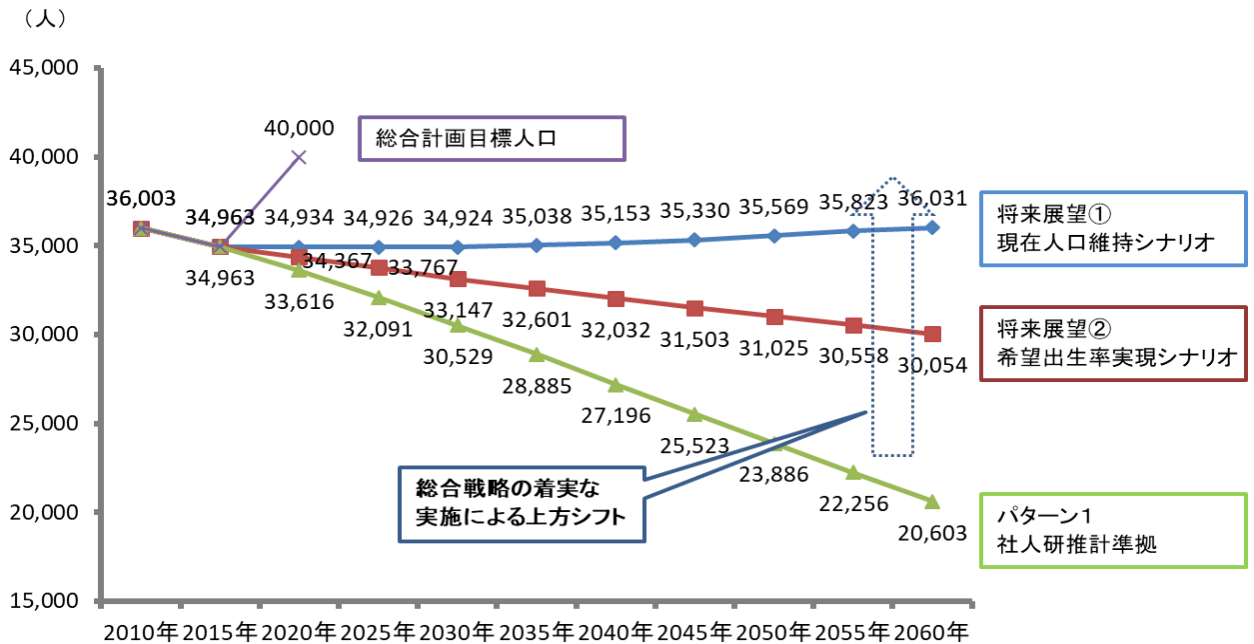
産業別就業人口の状況



(資料：国勢調査 2015 年)

人口の将来展望

本町の将来展望は、第 1 期と同様に 2060 年に人口 3 万から 3 万 6 千人の実現を見込む。パターン 1 (社人研推計) より出生率を上昇させ、転出抑制と転入増加を図ることにより、将来展望 1 では高齢化率は 26.5% となり、将来展望 2 では高齢化率は 29.6% となる。



出生率：将来展望 1・将来展望 2 とともに、2025 年 1.9、2035 年 2.07

純移動数：将来展望 1 パターン 1 より 256 人/年増加

将来展望 2 パターン 1 より 152 人/年増加

第2期苅田町まち・ひと・しごと創生総合戦略【概要版】

策定にあたって

計画の期間は、2020年度（令和2年度）から2025年度（令和7年度）までの6カ年とする。

地方創生は息の長い政策であり、国と同様に「継続を力」を基本姿勢とし、第1期総合戦略の枠組みを踏襲する。

政策体系

基本目標1

～ 苅田町にしごとをつくり、安心して働けるようにする ～

【数値目標】 「従業員の増加数」：828人（R7）

【具体的施策】

- ① 交通インフラ整備を通じた企業競争力の向上支援
- ② 新たな産業の創出と多様な雇用機会の提供
- ③ 製造業の更なる誘致、および既存関連産業の誘致による産業クラスターの形成
- ④ 自立できる農業経営支援による担い手の確保
- ⑤ 観光資源の観光業への活用・観光PRの強化・観光にまつわるサービス業の育成
- ⑥ 既存事業の競争力強化に向けた支援
- ⑦ 町内の事業所における雇用の確保

基本目標2

～ 苅田町に新しいひとの流れをつくる ～

【数値目標】 「社会増加数」：6年間累計780人（R7）

【具体的施策】

- ① 移住促進・交流人口の定住人口への転換及び関係人口の創出
- ② 町内での就職促進による転出抑制
- ③ 観光資源の観光業への活用・観光PRの強化・観光にまつわるサービス業の育成（再掲）

基本目標3

～ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる ～

【数値目標】 「出生数」：5年間累計2,048人（R7）（326人 H30）

【具体的施策】

- ① 出会いの場の創出
- ② 妊娠・出産への支援及び母子保健事業の推進
- ③ 子育てに対する不安や経済的負担の軽減
- ④ 子どもを育む環境の充実
- ⑤ 就労と子育ての両立支援
- ⑥ 子どもの見守り強化に向けたネットワークづくり

基本目標4

～ 時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する ～

【数値目標】 「これからも苅田町に住み続けたいと思う人の割合」：
90.0% (R7) (86.5% H30)

【具体的施策】

- ① 地域コミュニティによるふれあい・支えあい活動の推進
- ② 地域、企業が一体となった地域課題の解決の推進
- ③ 誰もがいきいきと活動し、健康で生きがいを持てる生活環境の整備
- ④ 地域における安全・安心の確保
- ⑤ 都市機能の確保
- ⑥ 青少年の健全育成
- ⑦ 広域行政の推進及び既存公共施設の適正な管理

横断的目標

① 多様な人材の活躍を推進する

若者、高齢者、女性、障害者、外国人など誰もが活躍できる地域社会を目指す。

② 新しい時代の流れを力にする

Society5.0 の実現に向けた、新しい技術の活用や SDGs（持続可能な開発目標）を原動力とした地方創生の取組など新しい時代の流れを捉える。

「Society5.0」

狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く、新たな社会（Society）を指すもの。サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムによる社会のこと。

「SDGs（持続可能な開発目標）」

2015年9月の国連サミットで採択された2030年を期限とする国際目標で、貧困や飢餓、気候変動など17のゴール・169のターゲットから構成されています。